



＝ いまの憲法が私たちの暮らしを護る ＝

改憲発言の狙いは人権の制限

新型肺炎と

緊急事態条項

中国の湖北省武漢市で発生した新型肺炎はウイルスへの効果的なワクチンが無い中、アジアから欧米へと人々に不安を広げています。そんな中、人心が動揺しているところを見透かすような発言が自民党またその周辺から頻発しました。この機会を逃さず改憲を進めてしまおうとするその声のターゲットは緊急事態条項でした。この緊急事態はうってつけだと、その言い分は露骨です。しかし、あまりの唐突さにこの動きは常軌を逸している、また専門分野を結集させ全力で対処すべきときだとの意見がいまでは大勢となっています。

マスクが足りない、かからないうようにするにはどうすればいいかなど不安が募り、緊急事態項が必要だと言われればなんとなく納得してしまいます。しかし立ち止まって冷静に考えてみましょう。
突如として現れた新型ウイルスですが、これらへの法整備はすでに感染症に対処するための法律として感染症法や検疫法な

どで整っています。施行にあたっては人権に配慮しつつ、現状の法律で対応できると関係者は冷静に捉えています。もし不足な状態であれば関連法の改正で済むことです。

それではなぜ自民党議員など改憲を進めようとす人々が緊急事態条項を持ち出してきたのでしょうか。それは一般の国民が考える今回のような限られたことに対処することではないところにあることを指摘したいと思います。12年の自民党改憲草案には全ての国民（「何人も」）は「国その他公の機関に従わなければならない」とあります。この一方的また強権的な文言は緊急時に国会の審議もせず、ときの政権に都合の良い法律をつくり、国民には有無を言

わさず従わせることができるとするものが得ようとするものです。これは人権が強制的に制限される大変恐ろしいことです。
また18年の改憲案にある「災害により」との文言は自然災害だけを

示しません。人為的なものも「災害」には含まれません。ナチスの例を引くまでもなく、憲法を停止し、国民を縛ることも視野に入れていきます。

緊急事態条項は大日本帝国憲法に天皇大権として存在していません。しかし、敗戦の苦しみを経た先人はこの帝国憲法を改正し、緊急事態条項は削除しました。主権は天皇から国民へと変わり、このときあえて盛り込まないようにしたのが緊急事態条項でした。改憲案の「公益及び公の秩序」も人権制限を狙っています。

4月30日に緊急事態条項について、学習会を計画します。詳細は本紙4月号でお知らせいたします。

今月の予定です

皆さん 気軽に参加ください

~~3月1日(日) 13:30-16:40~~
①菜の花の清掃日誌 ②芽つた危機 ③ラジカメの原点
南部梅郷公民館 南地域九条の会

~~3月4日(水) 13:30-15:30~~
おしゃべりカフェ
野田 九条の会

~~3月7日(土) 13:30-16:00~~
野田 九条の会 3月例会「緊急事態条項を考えた」
中央公民館 講座室 野田 九条の会

9の日 3月9日(月) 梅郷駅 各駅 16:00~17:00
19日(木) 川間駅 雨天の場合、川間 愛宕駅は中止します。
29日(日) 愛宕駅 野田・九条の会

~~3月10日(木) 13:30-15:30~~
おしゃべりカフェ
野田 九条の会

~~3月20日(金 祝)~~
さよなら原爆集会
野田 九条の会

4月5日(日) 13:30~16:40
無差別会 & 沖縄戦線の狂気と恐怖に
ディスカッション 「あゝひめゆりの塔」
散った「ひめゆり部隊」
南部梅郷公民館 南地域九条の会

野田・九条の会の賛同者

募集しています。
憲法九条を守る・活かすことに賛同する市民で活動しています。年間賛同金(1000円/1口)を出していますが足りません。ぜひあなたの力を貸してください。

<郵便振替>
00150-0-638912 野田・九条の会

新たに開設
ちよつと硬派な
おしゃべりカフェ

3月から新たにジャスコ3階第2会議室でも開設します。政治や憲法のこと気軽におしゃべりしませんか。



国民の求めに応えてください

コロナウィルスのニュース報道に隠れ、国会の議論を取り上げる時間がずっと少なくなっています。そんな中、相変わらず安倍政治による国民無視が頻発しています。桜を見る会の説明不足、I R関連の金銭授受、閣僚のコロナウイルス緊急閣僚会議欠席、検事長の勝手な定年延長等々。数えればいくらでも上げることができます。国民を軽視した姿勢がますます露骨になっています。その結果、最近の世論調査では内閣支持率が下がってきています。

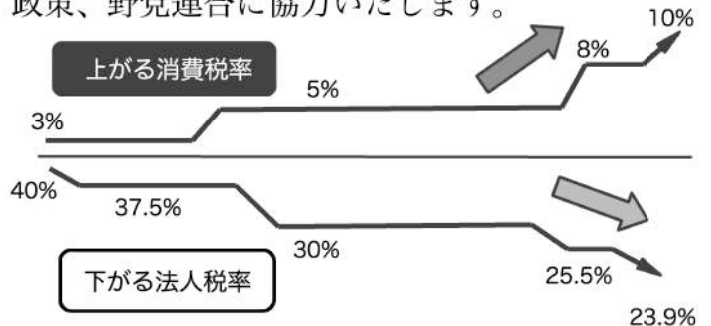
これまでもイラク日報、森友・加計学園、老後資金問題など問題が噴出して野党の追求を受けてきましたが、国民が納得する解決はせずうやむやに済ましてきました。こんな政権を国民の眼は厳しく監視していると世論調査が示しています。説明不足だ、納得できないなどの声で分かると思います。野党議員の皆さん、この国民の声をぜひ、真剣に聞いてください。国民はいまの事態からの変化を求めているのです。安倍政治は限界また国民無視に我慢がならないのです。そして世論調査の中で必ず語られるものがあります。なぜ安倍政権を支持するかという

質問に対しての答えが「他に変わる政権が無い」です。これが一強支持の元となっているのです。

ところが最近の調査では支持率が下がり始めました。国民は動きだしたのです。この先が重要です。国民はどこを支持すれば良いのか冷静に考え始めています。いまのままでは決めたくても決め手がありません。力強い反自民・反安倍の勢力が必要だと。野党議員のみなさん、是非とも気付いてください。野党連合を成功させる以外に国民の期待に応える道はありません。

日々の暮らしが第一です。生活を少しでもよくする消費減税には多くの国民は支持します。

国民の目にはっきり見えるような政策を力強く掲げ、これから進むべき道を指し示してください。九条の会も九条改憲阻止、暮らしの向上政策、野党連合に協力いたします。



音楽は人を寄せる

つい最近ある集いで、のこぎり演奏とトークを聴く機会がありました。奏者は野田市内に住んでいるKさんですが、テレビ出演はたびたび、全国的に活躍しているとのこと。

当初、私はその演奏に率直なところ期待してはいませんでした。たかがのこぎりを改造した楽器じゃないか、ただ、これまでそんな音楽なんて聴いたこともなければ観たこともない。興味本位で観客席にいました。

いよいよKさんの自己紹介から始まり、演奏。何と表現してよいのやら。バイオリンのような謡曲の音のような不思議な音色が会場

に響き渡りました。曲の合間のアベ政治を風刺した自作漫談には腹を抱えて爆笑。30分ほどの時間でしたがアッという間に終わりました。

Kさん曰く、「最後にのこぎりは大工の道具。では第九をご披露いたします」と。その時は気が付きませんでした。憲法九条を示唆していたのかなと思いながら耳に残る不思議な芸術に魅了されました。

よく指摘されることは「いつも怒っている人のところには人は寄り付かない」と。

より多くの人々を結びつける連帯感をはぐくむ役割が、優れた文芸や音楽ではなかろうか。

栗原 正次

